宝物はすぐそばに

校内研通信
第2号　　R7.7.3
発行者:校内研担当　仲村智

7月1日（火）に第1回全体授業研究会を行いました。対象の2クラスのみ残して、先生方全員で授業参観及びワークショップ型の意見交換会を行い、日頃は観る機会の少ない他教科の授業実践や他教科の視点からの助言等を得ることで今後の先生方の授業改善のヒントにしていただけたらと思います。学期末のお忙しい中ではありましたが、授業者・司会・ファシリテーター及び指導助言頂いた先生方に感謝いたします。

校内研修のキーワードとなる「視点生徒」を通した授業参観を軸とした授業改善サイクルを円滑に進めていくために「授業研での参観者の在り方」資料を下記添付しておきます。数学部会でのT2大量発生については、皆さんの奥底に眠る数学的探究心への刺激→可愛い生徒に教えたい欲求の喚起を授業者が引き起こしたのだと拡大解釈しておきます😄

※石川県教育委員会「指導改善資料」参照

研究授業における参観者の意識向上
「参観者の意識向上」と「研究主任の働きかけ」

参観者

自分ごととして捉え，授業者と共につくる授業研究

「この授業から自分も学ぼう」「自分も授業者になったつもりで」という意識で積極的に授業研究に関わろう！

事前
- □学習指導要領解説をもとに，どのような姿が見られたら目標達成と言えるかについて再確認し，具体的な記述や発言等を捉える。
- □目標達成に向けた手立てや働きかけについて，授業者の意図や思いを捉える。

研究授業
- □授業者の働きかけに対する児童生徒の姿（表情，発言，つぶやき）や変容のきっかけ等を丁寧に見取る。
  （児童生徒への指導や支援は行わず，見取りに専念する。）
- □事前に確認した目標達成の姿に照らして，目標達成したかを見取り，その要因について考える。

授業整理会
- □見取ったことをもとに，目標達成とその要因について協議する。
- □前回からの課題が改善されたか，本授業から見える成果と課題，改善策について自分ごととして考える。
- □自分の授業の中に，この授業からの学びをどう生かしていくかを決定し，明日より実践していく。

授業者をねぎらい，共につくった授業の達成感をみんなで分かち合えるといいですね。

研究主任

参観者の意識を高め，学校全体の授業力向上を図る授業研究

- □学校研究の主題，目指す児童生徒像等を研究構想図で確認する。
- □前回の課題や授業を見る視点を確認する。
- □目標を達成した具体的な児童生徒の姿について，学習指導要領解説をもとに，全体で確認する。
- □見取りの役割分担や参観の仕方について確認する。

- □授業者の働きかけに対する児童生徒の反応，表情等，授業全体を見る。
- □参観者がどのように見取っているかに気を配る。

- □発言しやすい雰囲気づくりに努め，みんなが発言できるようにコーディネートする。
- □本授業における成果と課題，改善策を明らかにするとともに，次の共通取組事項等について確認する。

「学校全体として育成を目指す資質・能力」を，一人一人が常に意識していくことが大切です。授業者も参観者も，研究構想図に立ち返って，学校研究の主題，目指す児童生徒像にどこまで近づけたかを確認し，次の授業研究につなげていきましょう。

アンケートへの回答ありがとうございました。先生皆さん今後のヒントとなる意見を頂いたので全部載せております。時間があるときにでもご一読ください。

先生方の振り返り
①授業改善に向けて参考になったこと

・支援が必要の生徒には、他より多く机間指導をする。 ・グループ学習を活性化させるための声かけをする。 ・生徒の思考する時間を多く設ける。
生徒どうしで教えあいの時間、ペアやグループで話す時間を多めに授業に取り入れようと思った。会話は積み重ねていかないとできないので経験させていく。何もできないグループが生まれてしまうので、できた生徒を派遣する等の工夫は考えていく。
改善を方法として「課題を具体的に取り上げ、自己目標を決めた上で内容を展開していくとより生徒の中で深まる」が参考になった。 生徒達が主体的に取り組むことができるように授業準備をしっかりと行うこと大切だと改めて感じた。 課題を生徒と決めて生徒と一緒に解決策を考えて行く授業内容が良いなと感じた。
話し合いに参加できない生徒の手立てを様々な先生方の意見を聞き、参考にすることができそうだった。
学習意欲が低い生徒をどう授業に参加させるか・・・教師側の対応力が求められます。起きなさい、やりなさい、の声かけでは無理なので、何か手立てを工夫しなければなりません。その子のやる気をどう引き出すのか、それにはどんな声かけがいいのか、いろいろ考える機会になりました。ゲームなど遊び的な要素を適宜とり入れてみるなど、いろいろ試してみようと思います。
今回の愛先生の授業の学級討議の内容が、「より良い２−４にするために、みんなで取り組めること(学級目標の振り返り)」だったので、子どもの声で授業を作るっている所がとてもいいなと思いました。 また、事前アンケートとパーセンテージで表していて興味深かったのと、授業の引き込みがとてもいいなと参考になりました。グループを小から大にしている所が、合う生徒もいれば合わない生徒もいて、改めて１人１人にあった授業作りが大切だと感じました。
視点生徒がどのようなところでつまづいて、動きが止まっているのかを実際に見ることができた。次から手立てを考える事に生かせそうです。
①　手遊びは悪か？　→　手遊びがその子にとって精神安定に繋がることも。生徒の特性を理解し、許容することも必要。 ②　ゴールを明確にする、見通しを立てる　→　やることが明確になれば生徒が学習に取り組みやすくなる。 ③　考えを深める　→　生徒に課題についてできていることできていないことを考えさせ、出た意見に問い返しや突っ込みを入れ深く考えさせる。少数（良い）意見も吸い上げ紹介する。
生徒の意欲を引き出す発問、導入
○手遊びやお絵かきなど生徒の気になる部分をプラスに変えられるような働きかけを考えるきっかけになった。 ○事前の準備や生徒への声かけなど、細かいフォローをより一層意識しようと思った。 ○解決や改善に向けて、問い返しや生徒同士の話し合いがより良い方向へ進んでいけると感じた。
授業者としてたくさんアドバイスをもらえたので、一つ一つ改善につとめます。私自身で学活の時間を選んだにもかかわらず、学級討議の最終目標を「合意形成」におくのか「意志決定」におくのか、という基本的なことを分かっていなかったので、今後の学級討議に繋げていきます。
視点生徒の観察や生徒の活動を中心に授業を参観することで、どのような声かけや指示を行うと話し合いが深まるのかと考えながら参観することができました。また、授業研究会でも先生方と意見を共有することで、授業づくりのヒントをたくさん得ることができました。学びの多い研修ありがとうございました。
特別活動の研究授業を参観しましたが、生徒の反応と担任の対応は信頼関係にもとづく対応でした。
先生方が積極的にワークショップ型の分科会に参加していて、他教科の様々な視点から授業改善のヒントを頂けてとても良い研修となった。 司会・ファシリテーターの先生方も、授業研究会の意図をくんで進行していただき、ありがとうございました。
グループ学習をさせる際の、目的の意識づけ、方法の確認などのアイデア等、授業研究会で共有していただくことができたのでとても勉強になりました。

② 全体を通して授業研の進め方や課題点など

自分の授業に取り入れられそうな意見をたくさん聞くことができて良かったです。
グループでわかれて振り返りができるのはよかった。自分からは話し合いできていると思って見ていたが、他の人からは「話し合い難しかったね」と言われていたり、同じ場面を見ていても見とりが違っていた。ただ声をだしているだけでなく、課題に向かっているかどうかも観察していく。
活動の流れも良く、指導助言もわかりやすくて良かったです。
教師側の授業展開がどうだったか、という視点での話しが多かったです。視点生徒を中心に観察し、その生徒がどの場面で反応していたのか、それを参考に具体的な改善策が見えてきて、自身の今後の授業改善に活かしていけると思うので、そこをもっと理解した上で研究会をすすめていけたらと思います。
2－4 は、明るいところももちろん素敵ですが、人の意見に反応があったり、否定しないところがとても素敵なところだなと感じました。私ははじめて授業研に参加したのですが、授業研究の後の、授業研究会の振り返りでも、自分では気付かなかった様子や意見、先生方の改善策を聞くことが出来てとても勉強になりました。ありがとうございました。
興味を引く題材や思考を深める内容に触れることができたので、自分の授業でももっと生徒の考えを深めるような内容に取り組みたい。
授業研の進め方や話し合う視点等を司会やファシリテーターだけでなく、全体で確認できるとさらに深まった意見や話合いができるのかもと思った。
今回の授業研は分科会でも反省としてあったように、参観者の参観の仕方を再確認したほうがいいと感じました。普段の授業の様子を見て、生徒がどのようなペア・グループ活動をしているのか、他者との関わり方などを含めて参観できたらと思います。授業お疲れ様でした。非常に参考になる授業で今後の実践に活かしていきたいと思います。
各グループでそれぞれの視点生徒の観点から考えてもらえたことがありがたかったです。視点生徒においた生徒は毎日の授業や学級経営において困り感が合った生徒だったので、いろいろな先生方の目線からアドバイスをもらえたことが有意義でした。
一人の生徒の活動の様子を通して授業参観は研究授業を参観する方法としては良いと思う。授業改善に繋げるのであれば、授業の目標と何を身につけて欲しい教科担任の思いを明確に、その生徒が教科担任の目標に向かう動きをしているか、変容しているかを確認があれば良いと思う。参観者する教諭の下にプリントで教科担任の目標を確認し、生徒の動きや変容が見れたらよいと思う。
外部の指導主事を呼ばずに、校内の先生方の全体授業研であっても、各先生方の的を得たグールプ協議などは、教科の専門的な指導助言がなくても、充分機能していると感じた。 次年度以降も、指導主事招聘なくても年 2 回の全体授業研は計画していいかもと思う。